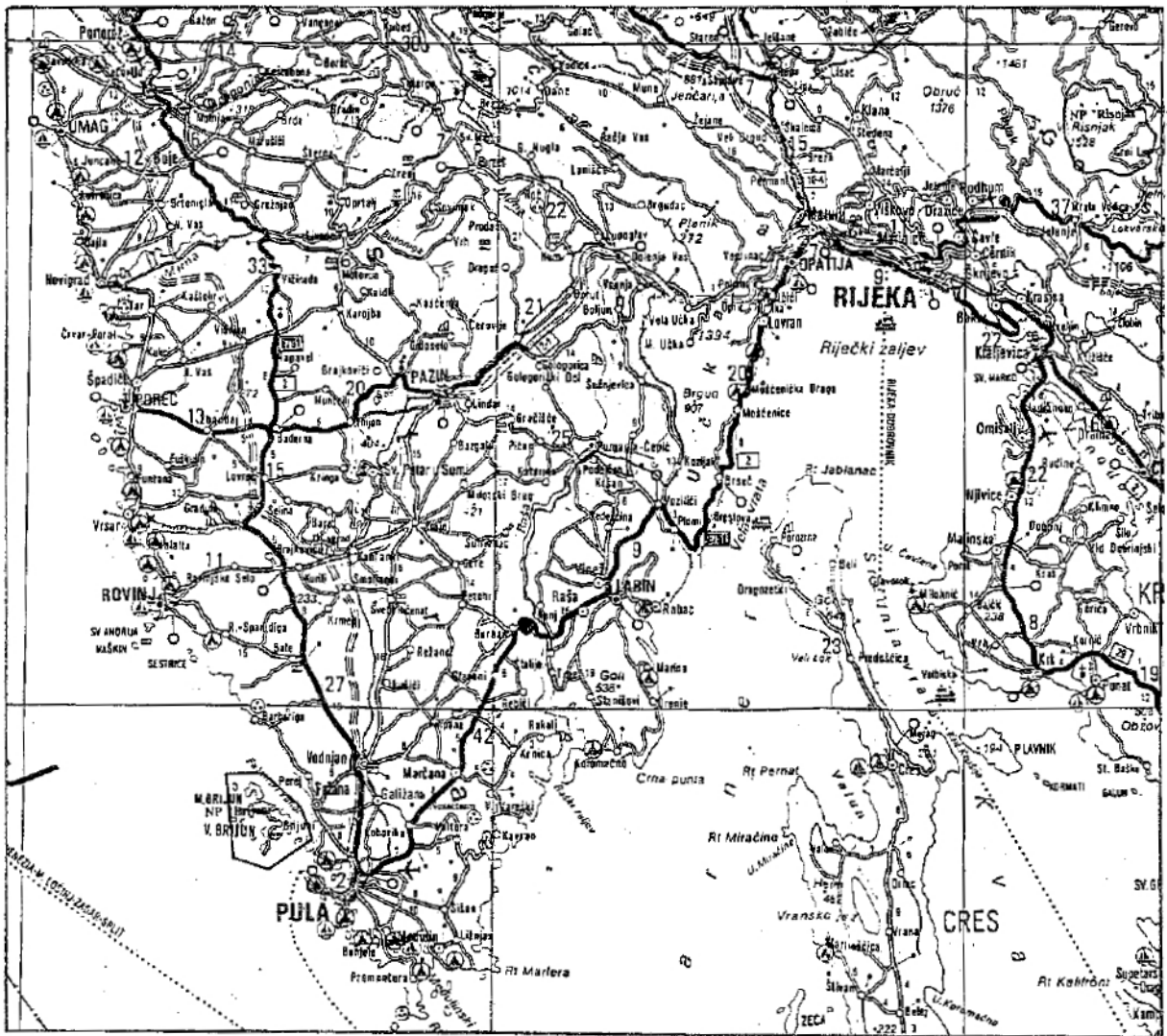


リエカ市交流使節団

報告書

1998. 7. 20 ~ 8. 2



川崎市青少年育成連盟





姉妹都市リエカ市交流を終えて

リエカ市交流使節団 団長 芦垣 秀代

「育成連盟キャンプ」として実施した姉妹都市訪問研修。行政ご当局の深いご協力とご支援を賜り、多くの成果をあげ、ここに報告書をまとめることができました。

子ども達は、私たち日本人と同様に、どこの国にも色々な人間がおり、様々な暮らしがあること、そして、それぞれの国の人々が自らのアイデンティティーを大切に育て、独自の生き方を求めながら、他の国々の人々との友好・交流を望んでいることなど、国際感覚を肌で感じ、学ぶことができたようです。

国際化時代といわれ、私たちの生活と深く係わる多くの分野で、国際的な取り組みが進みつつある今日、これからの時代を担う子ども達にとって必要なことは、一人一人が国際感覚を身につけ成長することではないでしょうか。その意味からも、今後も海外研修が続けられればと願っております。

おわりに、リーダーのみなさんの献身的なご協力のおかげで、本事業が達成できましたことを心から感謝申し上げます。

子ども達へ

始めて訪れた私たちの姉妹都市リエカ市にどんな印象を持ったのでしょうか。毎日とても暑い日々でしたがリニッチ市長さんへの表敬訪問、そして国立公園などへ出かけた後、UMAGでのキャンプになりましたが、たくさんの思い出や友達はできましたか？私たちの住んでいる日本とはずいぶん異なる事がたくさんあり戸惑ったことでしょうか。言葉もあまり話すことができずに自分自身が情けなかつたりした事もあったことと思います。彼らが一生懸命食事を作ってくれたり、どうしたら喜んでもらえるのか考えて下さったり、たくさんの温かい心を感じたと思います。リエカ市滞在中もUMAGでのキャンプでも言葉は通じなくても、心は通いあうことは出来たのではないのでしょうか。あなた方が一生懸命リエカのスカウトと接していた姿はとても素敵でした。短い時間の間でしたがあなた方が感じたり、考えたことは今までとは違う見方や願いや考え方、そして何よりもあなた方自身にプラスになる出来事だったのではないかなと考えます。日本のお友達もリエカの新しいお友達もこれから先、ずっと仲良くしてほしいと願います。キャンプは終了してしまいましたが、これからが本当の交流の始まりです。さよならパーティーに市長さんがいらして話をされていたように、リエカの子ども達とたくさんの交流をしてほしいと願います。日本から本当に遠い国ですが、心はいつも近くにあれば素晴らしいことだと思います。またいつか一緒にリエカ市を訪れることができれば良いですね。

組 織 図

団 長

芦垣 秀代

副 団 長

竹折 恵子

生 活

奥田 恵子

保 健

天野 恵美子

会 計

佐々木れい子

班 名	ミラノ
班 長	岸 まいこ
副班長	大久保 茜
	石田 綾
	芝田 千絵
	中村 奏子
	日比野 七生
	江木 理未

班 名	アドリア
班 長	木下 博美
副班長	平田 文
	天野 梨絵
	中塚 聡子
	桂山 奈緒子
	瓜生 瞳

班 名	Oasis
班 長	苔米地 正啓
副班長	上田 長之
	村松 裕介
	芝本 卓也

成人使節団
山口 淑子
武田 知恵子
仁藤 照子
小島 謙介

行 動 日 程

7月20日 (月) 晴

10:05	成田空港発 ルフトハンザ航空 71便
10:45	フランクフルト着
16:55	フランクフルト発
18:15	ベニス着
19:00	ベニス出発 バスでリエカ市へ 車中、ガイドさんからイタリアについて説明を聞く。
00:00	リエカ市 ホリデーセンター着 夜食
00:30	就寝

7月22日 (水) 晴

07:00	起床
08:00	朝食
09:00	ホリデーセンター出発 (バスにて)
10:15	国立公園散策
12:10	国立公園出発
12:30	鍾乳洞見学
13:00	鍾乳洞出発
14:00	フジネのキャンプ場訪問 昼食
15:30	フジネのキャンプ場出発
18:15	ホリデーセンター着
19:00	夕食
22:00	就寝

7月21日 (火) 晴

07:00	起床
08:00	朝食
09:30	貨幣の両替に行く。(1円=23円)
10:20	ホリデーセンター出発 (バスにて) リエカ市内見学 (トラサート教会・トラサート城・旧市庁・博物館)
14:00	市長表敬訪問 (メッセージ、プレゼント交換、記念撮影)
15:45	ホリデーセンター着 昼食
16:45	アドリア海で海水浴
19:20	夕食
20:00	リエカ市内見学 (カスタバの夜景・オパティアの街)
23:00	就寝

7月23日 (木) 晴

07:00	起床
07:45	朝食
09:00	ホリデーセンター出発 (バスにて)
11:30	モーダヴンの町を散策
13:30	ウマクキャンプ場に到着
14:00	入所式
15:00	昼食
16:30	班毎に海水浴
19:00	夕食
20:30	イブニングゲーム・キャンプファイヤー
22:00	就寝

7月24日 (金) 晴

07:30	起床
08:30	朝食
10:30	班別行動 (体操・ソング・ゲーム・クイズ大会 等)
13:30	昼食
15:00	リラックスタイム
17:00	班別行動 (バレーボール・サッカー)
19:30	夕食
21:00	キャンプファイヤー
22:30	就寝

7月25日 (土) 晴

07:00	起床
08:00	朝食
09:00	キャンプ場出発 プーラへ (バスにて)
10:30	プーラ市内見学 (コロシウム・博物館) 班毎に昼食・ショッピング
14:00	プーラ出発 カジャーナから乗船
15:00	ブリューニ国立公園着 バスで見学
19:00	ブリューニ国立公園出発
21:30	ウマクキャンプ場着 夕食
22:30	就寝

7月28日 (火) 晴

07:30	起床
08:00	朝食
09:00	フリータイム (さよならパーティ準備・出発準備)
12:00	昼食
13:00	さよならパーティ準備
16:00	さよならパーティ
18:00	夕食
19:00	キャンプ場出発
22:00	オパティアのホテル着 (アンバサダーホテル)
23:00	就寝

7月26日 (日) 晴

07:30	起床
08:30	朝食
10:00	花笠・竹とんぼ作り (リエカのスカウトも一緒に)
13:30	昼食
14:30	リラックスタイム
16:00	海水浴
19:30	夕食
22:00	就寝

7月29日 (水) 晴

06:30	起床
07:00	朝食 荷物ロビーへ
08:00	ホテル出発 (バスにて)
13:00	ベニス着 レストランにて昼食 (ドッカラー宮殿・サンマルコ寺院 見学・ショッピング)
16:30	ベニス出発
19:40	フィレンツェのホテル着 (アングロアメリカン グランホテルレギナ)
20:00	夕食 (市内のレストランにて)
22:00	就寝

7月27日 (月) 晴

07:30	起床
08:30	朝食
09:45	キャンプ場出発 (バスにて)
10:10	BAREDINE 鍾乳洞 見学
10:40	BAREDINE 鍾乳洞 出発
11:00	海水浴 (ウマクビーチにて)
13:30	ビーチ 出発
14:00	キャンプ場 着 昼食
15:00	フリータイム
17:30	夕食
22:00	就寝

7月30日 (木) 晴

06:30	起床
07:00	朝食
07:30	ホテル出発 徒歩で美術館へ
08:30	ウフィツィ美術館見学 フィレンツェの街を散策 (ベッキオ橋・ショッピング)
12:30	昼食
13:30	フィレンツェの丘で展望・集合写真
18:00	ミラノのホテル着 (センチュリータワーホテル)
19:00	夕食 (市内のレストランにて)
22:00	就寝

8月1日 (土) 晴

05:30	起床
06:30	ホテル出発
09:16	ミラノ リナーテ空港着 (待ち時間に朝食)
10:45	ミラノ出発 (ルフトハンザ航空 3795便)
12:10	フランクフルト着
13:55	フランクフルト発

8月2日 (日) 晴

07:55	成田空港着
-------	-------

7月31日 (金) 晴

07:30	起床
08:00	朝食
09:00	ホテル出発 ミラノ市内見学 (サンタマリアデレグラッツェ教会・ 大聖堂・スフォルツェスコ城)
12:30	昼食 (市内のレストランにて)
13:30	ショッピング (マーケットにて)
17:00	ホテル着
20:00	夕食 (市内のレストランにて)
22:00	就寝

「また会いたいクロアチアのみんな」

土橋子ども会 苦米地 正啓

7月28日、この日はキャンプ生活最後の日だった。この気持ちがこの旅で最も印象深く、忘れられるものではなかった。悲しかった。心残りだった。

本当にキャンプ場の人たちと別れるのが辛かった。人生の中で最も悲しいひとときだった。

悲しいといっても一言で表せるものではなかった。そう、いつもの悲しいとは全く感じが違ったから……。何か暖かい悲しみだった。心にダメージのない悲しみというか何と。

親戚の葬儀には何度か立ちあっているけれど、そういう悲しみとは一緒にしかなかった。

そう、またきっと会えるような気がしたからだと思う。本当に心からまたクロアチアのみんなと会いたいと思っている。それがどんな形であろうともかまわない。何十年先でもかまわない、また会いたい。これが本当に純な心の内。

別れの日、不覚にもというわけではないけれど涙があふれてきそうになった。けれど我慢した。なぜか？みんな笑ってた。現地の人たちは笑ってた。きっとまた会えるからと思っているに違いない。お互いそう思っているのだからきっとまたどこかで会えるはず。

いろんな観光地へ行った。確かに興味深かった。各地のガイドさんの話、添乗員さんの話もとてもおもしろかった。けど日本に帰って思い出すのはキャンプ生活の思い出ばかり。

これだけクロアチアでの思い出を多く作り、現地の人々と沢山の交流を持ったことは見事使節団としての任務を完了したのだと思う。実にいい旅だったと思う。

この旅での同じ使節団員に、またこの旅に尽力してくれた人たちに感謝感謝。

そしてクロアチアの多くの友にファーラ。

「キャンプ生活を通して」

土橋子ども会 上田 長之

正直な事を言えば、不安でいっぱいだった。

一週間もキャンプに耐えられるのか、言葉はどうしようか、そして何よりもクロアチアの人たちとどう接しようか。おまけに体調もくずし、不安がより大きくなった。

そんな僕を、みんなはあたたかくむかえてくれた。

小さな子たちは、めずらしそうに見るんだろうなと思っていたら、その逆で、めずらしいからこそ積極的にいろんなことを聞いてきてくれた。名前を聞かれたり日本語で書いてくれと言われたり。その時に気づいたのだが、小さい子でも8割近くが英語を話していた。このことで不安はほとんど消え去った。それどころか、こんな小さな子でも英語を話せるということにとっても驚いた。

キャンプ生活をするのは初めてだったが、とても楽しかった。みんなと遊んだり、海で泳いだり。できればテント張りもやってみたかった。

僕は今年の夏、初めて外国（クロアチア共和国とイタリア）に行ってきました。

僕の頭の中では、その時の興奮がさめずにまだまだ残っています。僕はこの旅行で、さまざまなことを見、学び、日本との違いを肌で感じて来ました。その数々をここに書き出して、自分が生まれた国、日本について考えて見たいと思います。

二週間の旅行でまず第一に感じたことは、日本の生活の便利のよさです。自家用車、家中にあふれる電化製品、衣類や本、24時間のコンビニでは夜中でも食べ物や日用品を買うことができます。またパソコンのスイッチ一つで、世界中の情報を手に入れることができます。お金を出せば、衣食住に不便を感じることは、まったくありません。

外国では、まず水道の水が飲めませんでした。飲み物は、炭酸類ばかりでジュースも口に合いませんでした。しかし、ここでは、自分達の居るすぐ側に、豊かな自然がありました。

空気もおいしかったし、海の水も、空の色も澄みきっていました。

日本では便利さを追求するあまり、自分達の住む環境を汚しています。空気や水を汚染し、結果的には、自分達の住みごちを悪くしている様に思います。これでは、元も子もありません。たまには不便だけれどがまんする生活、自然に沿った生活も、必要なのではないのでしょうか。

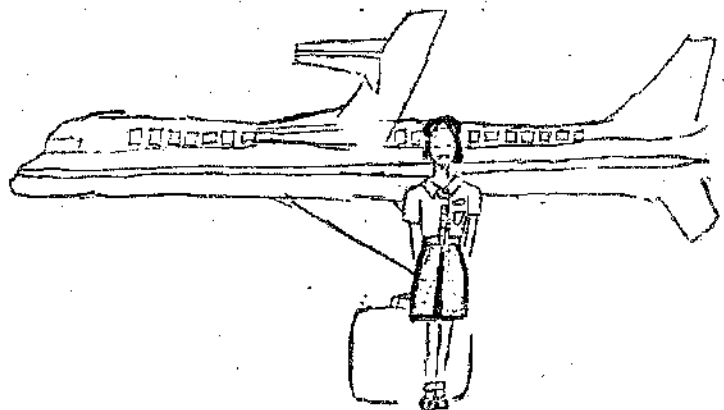
逆に外国の人達が日本に来たら、どんなことを感じるのでしょうか。便利さを、ぜいたくさと感じるのではないのでしょうか。自然の少なさや、汚れた空気や川に驚かされることでしょう。

二番目に、幸せの違いです。三日目に、僕達は、クロアチアの内戦で親を失った子供達に会いました。僕は会う前に、親がいないのだから、皆暗いんだろうと思っていました。

しかし会ってみたら、予想に反して、みんなとても明るく生き生きしていました。歩き疲れた僕よりも、元気で、そして何より、みんな満たされている感じがしました。

自分はまだ満たされていないのに…。それを見て、気づかされました。それは人が満たされる幸せの量は、人それぞれ個人差があること、そしてその量の幸を手に入れることが、人生の目標の一つだということを考えました。

三番目は、明るさとおおらかさの違いです。外国の人はとても陽気でおおらかです。街に出かければ、たいへん活気に満ちていて、商売も繁じょうしています。人々の心が、ゆったりとしていて、生活を楽しんでいる様子がうかがえます。日本では大人も子供も、セコセコしていて、生活が時間に追われているだけでなく、心までせわしくなく、



男子四人は現地のスカウトのリーダーたちのグループと一緒にいた。全員が英語を話すことができ、わからない時はジェスチャーなどで会話をしてくれてとても助かった。

名前が覚えにくいと思ったのか、全員の分の名札も作ってくれた。みんなに感謝するばかりだった。

キャンプ場を去る日に、小さな女の子が、貝がらを五つくれた。浜辺で拾ったのだろうか、とても小さいものだった。でも、それにはその女の子の精一杯のもてなしの心があった。

この女の子だけでなく、全員が精一杯もてなししてくれた。食事の準備からテント張りまで全てやってくれていたのにもかかわらず、手伝おうかと聞くと、誰一人首を縦にふる人はいなかった。日本人にはない心の豊かさを感じた。キャンプでなくとも、またみんなに会いたい、クロアチアに行きたいと思う。



忙しい日々を送っている気がします。日本に帰って来て日本人のほうが心なしか硬直してみえました。それに加え、今、日本は不況です。こんな時だからこそ、落ち込んでいるのではなく、気持ちの切り替えや余裕が大切ではないのでしょうか。

最後に、コミュニケーションの重要さです。民俗、習慣の違う外国人に自分の考えを伝えるむずかしさです。同じ日本人同志ならば、十のうち六か七言葉にして伝えれば、後は自然にわかりあえるものです。クロアチア滞在中、ちょうど日本では、自民党総裁選挙があり、地元の新聞にその様子を伝える記事が写真付でのっていたので、びっくりしました。

今や日本は、世界の人々から注目されている国です。日本人は、世界に出て堂々と意見を述べるべき人種です。英語の重要さ、母国語である国語の大切さを認識し、世界に出て、自分の意見や考えを発表できる日本人になりたいと思います。

「思い出」

土橋子ども会 芝本 卓也

ぼくは、このリエカ市交流に参加してとってよかったなと思っています。

それはクロアチアというめったに行くことのできない国に行くことができたり、クロアチアの友達といっしょにキャンプができたり、とてもいい経験ができたからです。

初めは言葉や食べ物などで不安いっぱいでした。だけどクロアチアの子達とも仲良く友達になれてとってよかったのです。それとぼくは、あんな自然にかこまれた所で生活をしたことがないので、日本の都会とクロアチアの自然の違いをつくづく感じました。

そして、毎日毎日海で泳ぐことができ、とても気持ちよかったです。

けっこう日本との生活の違いで苦労したけど、それがとてもいい経験になりました。

イタリアでは、家や教会やコロシウムなど古い歴史を感じました。クロアチアやイタリアの気候は、日本とちがひ湿気がなくカラッとした暑さでした。でもこの暑さの中で飲んだ水は、かくべつにおいしかったです。

この交流でぼくが一番うれしかったのことは、キャンプ場で多くの友達ができ、事前に書いた「クロアチアの人達と一人でも多く友達になる」という目標を達成できたからです。

ぼくは言葉は通じなくても友達ができるということを実感しました。14日間は、あっという間に終わってしまったけれど、このリエカ市交流で経験したことをいかして何十年後かチャンスがあったら、またクロアチアという国に行きたいです。そして、このリエカ市交流の思い出を一生心に残しておきたいです。

私は、リエカ市交流使節団の一員となっていていろいろな事を感じ、いろいろなことを学びました。

行く前は、話は通じるかな、みんなと友達になれるかな、どんなことするのか、といろいろ不安な部分もありました。

だけど、実際に行ってみたら私が不安に思っていたことも、どっかに吹っ飛んでしまいました。すぐにみんなと話せたし、ゲームもいっしょにやったりしてすぐに仲良くなりました。

キャンプ中は、海に行ったり、ボールで遊んだり毎日毎日遊んでばかりでした。特におもしろかったのは、うちのグループと同じ班の男の子達のグループとで3種類の競技を競っていくゲームみたいなのはとってもおもしろかったです。最初の2種目はずっと負けて、最後の綱引きで余裕？の一勝をしたのがみんなうれしくてすごく喜びました。バレーボールは、ポロポロだったがみんなで作っている時、応援している時はとっても燃えました。

キャンプファイヤーもよかったし、班の子とサッカーをしたこともとってもおもしろかったです。

クロアチアの子は、とってもやさしく私たちに接してくれました。それはいろいろな面で感じました。私は特に言葉の面で感じました。みんなと話している時に、理解できなくなって「え？何？」って顔してたら、ジェスチャーでやってくれたり、簡単な英語で言ってくれました。そんな時に、ああ考えてくれてるなあと感じました。

みんなが私たちのことを考えてくれたから、毎日楽しく過ごせたのだと思います。

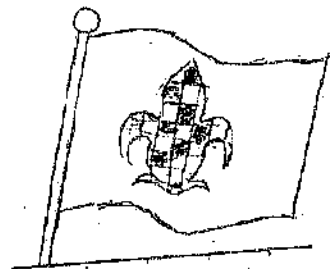
そして、キャンプ場を出発する時に、みんなが歌った『ファーラ』。練習の時はただ歌ってるって感じだったけど、出発する時に歌ったのは、本当に感謝の気持ちを含めて歌えた。

そして、ファーラがとってもいい曲だということに気づいた。私は、本当にクロアチアに行けてよかったと思っています。

私が、クロアチアで学べたことはコミュニケーションの大切さと、どんなに離れていても心の中では、ずっとずっと友達だ！！ってことです。

私は、勉強することも大切だけど、人間として大切なこともたくさんあると思います。だから、これからも、コミュニケーションの大切さと心の中のつながりを大切にしたいです。

最後になりましたが、団長、リーダーの方々、かざよりリーダー、やさしく接してくれたクロアチアの子、どうもありがとうございます。『ファーラ！』



私は、今回のリエカ市（クロアチア）に行けたことをとてもうれしく思えます。

最初は外国なんて行ったことが一度もなく、さらにクロアチアの近くで戦争が起きていると知って、行きたくないなと思っていました。でも、社会勉強のためにもぜひ一度行ってみたいと思い行くことにしました。

そして、クロアチアに行く為に色々準備をして、行く日になり少しハプニングもありましたが無事出発できました。

飛行機に乗っている時間が長かったので、少し気持ち悪くなってしまいましたが、クロアチアに着いたらそんなことはすぐに忘れてしまいました。

クロアチアは、とても気温が暑いので少しクラッとしたり、夜なんか寝られないほどでした。

クロアチアに着いて、初めの何日間は、日本で言えば「青少年の家」みたいな所に泊まっていた。その家の人はとても親切で、英語がど下手の私の言葉でも一生懸命にわかろうとしてくれました。

そして数日後、私たちはキャンプのある所に行きました。クロアチアの人たちがいっぱいいて、着いたその日にすぐに友達ができました。

そのキャンプ場にはいなかったけど、リエカ市の市長さんにも会えました。とても優しい市長さんでした。

話をもとにもどして、キャンプでの生活は、まさに遊んで暮らす日々でした。

朝、昼、夕食を食べていて、4時になると海へ行く、あとは遊んで歌って寝るだけでした。こんなにのんびりしたことがあまりなかったので、私としては、とても変な感じがありました。日本人は忙しいから、こんなふうに感じられるのかもしれないなと思いました。

キャンプでは色々なことをしました。歌をうたうことだってそうだけど、キャンプファイヤーをしたり、バレーボールをしたり、その他にも日本の遊びもやりました。

少し問題もおきました。私は何かしたおぼえはないのですが、クロアチアの友だちのお兄さん、ルカ君がとても怒っているようなのでどうしたらいいかわからず、クロアチアの一番の友だちのイリアに相談してみたら、別にルカ君は怒っているわけではなく、無愛想なだけだという答えがかえってきました。そしてその問題も無事解決できました。

そうやって、何日間かのキャンプが終わり、私もみんなもクロアチアの人たちと別れる時、大泣きしました。私は何年ぶりかの大泣きをしました。

別れる時、一生懸命にイリアが手紙を書いてくれると行っていたので、私はイリアに絶対に手紙を書こうと思いました。そして旅行も無事に終わり、家に帰ってから、クロアチアでのことを色々はなしました。

それから、イリアに手紙を書こうと思っているのですが、なにぶん英語も英作文も苦手な私なので、今でも書けないでいます。今でもイリアたちのことを思い出すと泣けてきちゃうのですが、またいつかお金をためてクロアチアに行こうと思います。

今回の旅行は、私にとって、とてもいい経験となりました。

教訓・・お金にかんしては、十分に気をつけること。とくにポシェットなどが要注意！

「あの旅をもう一度」

土橋子ども会 桂山 奈緒子

7月23日から7月28日まで、私達はクロアチアのウマグというところでキャンプをしていました。

クロアチアの人とは写真でも見たことない、「他人」でした。しかし28日には共に過ごした「友人」になっていました。

キャンプは大きく三つの班に分れていました。私は中学生の多い班に入っていたのでサッカーよりも文化交流の様なものをやりました。

歌を歌ったり、雑誌を見せてもらったり、海に行って泳いだり、ただ木の下で寝転んだり、時間はゆっくり進んでいました。

キャンプファイヤーで、堂々とみんなの前で踊ったり、演技をしているクロアチアの子の姿は輝いて見え、私と一才違う子でも、十倍大人でした。

「あなた達がいなくなってから、キャンプに穴が空いた様でした。」という手紙が届きました。

是非あの旅をもう一度！



「英語をもっとしゃべれるようになりたい

～国際キャンプに参加して～」

土橋子ども会 江木 理未

私は、今回の国際キャンプに参加して、リエカの人と友達になれたことを、とてもうれしく思います。

キャンプ場に到着して、私がお世話になるグループを紹介された時、男の子だけだったから、話が合うのか、自分の英語が相手に伝わるのか、相手が言っていることを理解できるのかと、不安なことだらけでした。でもすぐに「一緒にウノやろう」と声をかけてもらったので、ちょっとだけ気持ちが楽になりました。

一緒にやっていると、自然と会話が多くなり、カタコトの英語同志でも、なんとなく理解し合えたように思いました。



会話が分かる、だんだん相手の気持ちも考えることができるように……。しかし、話がすすんでくると、分かり合えない会話も出てきて、本当に理解し合えているのか、不安になりました。

今、世界各国で通じる言葉は英語です。このキャンプで、身をもって、英語の必要性を感じることができました。

小6の私にとって、来年の中学1年生から始まる英語を、しっかりと勉強していきたいと思います。そして何年か後に、リエカの人と再会し、今よりももっと分かり合える様になれていたら、とても素晴らしいことだと思います。





「クロアチアでの生活」

ガールスカウト32団 瓜生 瞳

私はまさか海外に行けるなんて思ってもいませんでした。

クロアチアでという所が貧しいと聞いていたので、どういう所かはだいたい想像していましたが、いざ来てみると想像とは全々ちがっていて緑豊かでとても景色がきれいな所で素敵だなあと思いました。

外人の人達はみんな陽気ですごく沢山歌と遊びを教えてくださいました。

日本のことにもすごく興味を持っていて折り紙でつるを折ってあげたらすごく喜んでくれて、つるの折り方を教えてあげたら首をかしげながらも楽しそうに折っていて少しぶかっこうだったけど折りおわったら笑顔でつるの羽をパタパタ動かして遊んでいたのので教えて良かったなあと思いました。

言葉は通じなくても簡単な英単語をつなげるだけで分かってくれたので嬉しかったです。

私は今回クロアチアに行ってから本当にガールスカウトに入っていて良かったと思いましたがガールスカウトに入っていなかったらこのような貴重な体験はできなかったと思います。

また行くときがあったら、英語をあるていどしゃべるようになっていたらいいなあと思っています。

「クロアチアに行って」

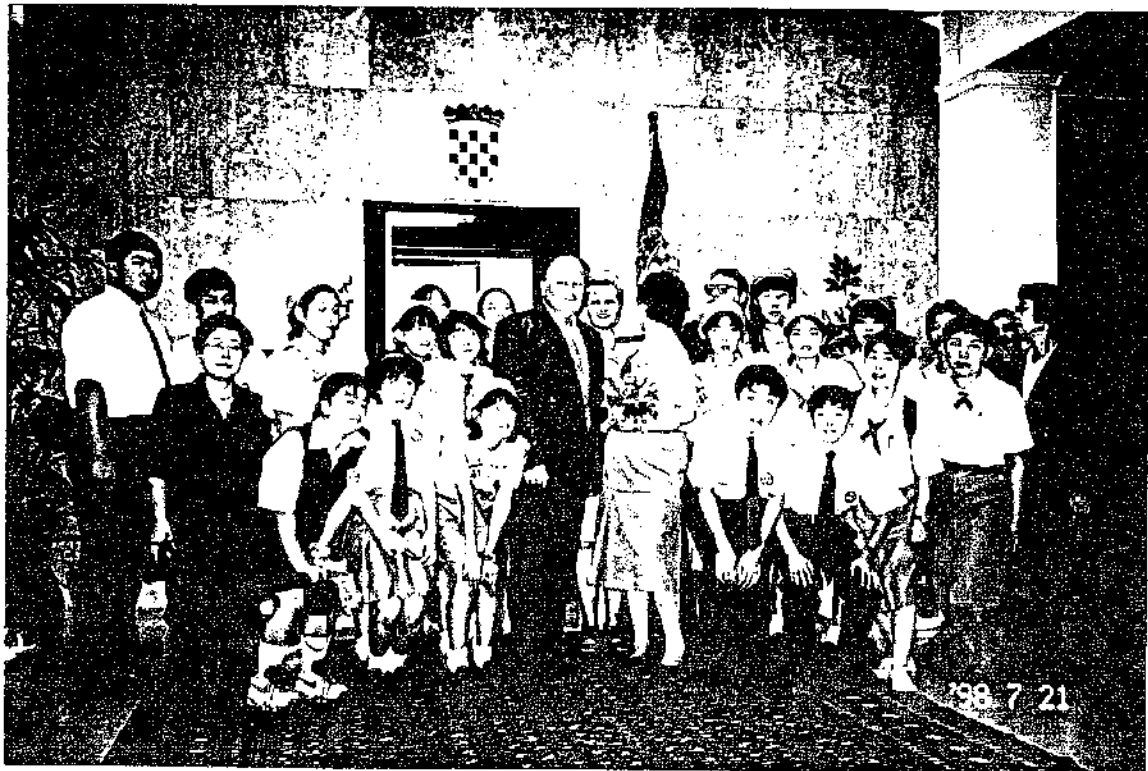
ガールスカウト65団 天野 梨恵

キャンプ生活をへて、私が経験したことは数知れませんが、英語が話せず困ったことも、ありました。なかなか友達ができなかつたりもしました。一週間もあつたはずなのに、とても仲良くなったの子ができたのは、三日目あたりからでした。

私が、仲良くなった子は、テオという11歳の男の子です。第一印象は、おとなしい子という感じでした。

私が、初めてテオと話したのはみんなで日本の「あやとり」や「お手玉」をしているときでした。あまりそれが楽しそうじゃないみたいで、そのうちに自分のボールで遊び始めてしまいました。そのときに私も一緒に遊び仲良しになりました。

他にもイーリヤ、ティナ、ダヴォル、サンドラ、マーシャ・・・名前をあげればきりが無いほどたくさんの方と仲良しになりました。だから最後の日「ファーラ」を歌ったとき涙が出そうになりました。私よりも小さくて、なのに私よりも一生懸命でしっかりしていて、すごいなと思いました。こまった人がいれば助けてくれて、あたり前のことが私にはできていませんでした。それに私は、英語をもっと勉強しておけばよかったと思いました。中学に入学したときから好きではなく、それが2年も続いたのでさらに好きでなくなってしまったのです。これから英語をもっと勉強して、いつかもう1度クロアチアに行き、みんなにあいたいです。そしてそのときはちゃんと会話ができるようになりたいです。



最初私は、クロアチアへあまり行きたくありませんでした。パスポートの受け取りの時にクロアチアは危険度2と書いてあったり、ワールドカップで、クロアチアと日本が戦う前に、ニュースステーションでクロアチアの事をやっているのを見たら、教会の回りにはロープが張ってあったり、地雷などがたくさん埋まっていたり、地雷で片足を失っている人がかたくさんいる事を知り、最も行きたくないという気持ちが高まりました。それに、キャンプが一週間あるのも大変だなと思いました。ガールスカウトのように、朝のつどいや料理作りなど、色々朝から夜までやるべき事がたくさんあるんだろうな。とか言葉も通じないのに、二週間もクロアチアへ行くなんてやだなーとかそう思っていました。

ガールスカウトで、リーダー達がクロアチアの写真を見せてくれたとききれいな所だな。

本当にこういう町があるのかな？と思ひ少し行ってみたいな、と思いました。

けっこう行く前の日はどういう所だろうだとか、楽しいかな？とか色々な事を考えてしまひ行く前の日は、一睡もできませんでした。友達や一所に行く人達といるとなんだか早く行ってみたいと思いました。

私は、海が好きなので外国の海に行きたいな。と思ひ行くと、外国の海はとてもきれいだけど砂浜ではなく、岩でした。それと、海水はとても塩がきいていて、すごく塩辛い海水でした。でも海はサイコーでした。一回だけ私は、あまり話は通じませんでした。外人の人と二人で深い所まで行くと低い所とは違いたくさんの魚やくらげ・ウニに貝やなまこなど色々な生き物が暮らしているんだなーと思いました。そこで私が思った事は、日本の海はとてもきたない。だからこういう外国のように生き物が暮らしていないんだなあと思ひました。外国の海は、ゴミなんて一つも浮かんでいません。

私は、キレイな海に入れてとてもうれしかったです。キャンプも起床もそれほど早くもなく料理は作らなくてもいいし、毎日海には行けるし、バレーボールをしたり洗濯をしたり、毎日毎日キャンプなのにのんびり過ごしていたなと思ひました。

日本って本当に豊富だなんて思ったのが水。外国で始めて分かった。水が出なくなると、どんなに大変なのかとか。よく分かった。自分がたくさん水を出していると、他の人が水を使おうと思ひて水を出しても出ないと、すごく人に迷惑をかける事が分かりました。

とてもたくさんの友達ができ、とても楽しかったです。あと、キャンプ場にハンモックがあったのがよかったです。日本では、見た事がなくて乗ってみたいなって思ひて、夜そこで少し眠ってしまったりました。気持ちよかったです。

私はキャンプでだと、あまり夜眠れませんが、夜おそくまで見学したり、していたので夜は毎日よく眠れたなあと思ひました。買い物も色々な物をたくさん買えたのでよかったです。

私は、クロアチアに来てよかったです。海はキレイだし水の節約の事など色々な事が学べたな。と思ひました。また、こういう機会があったら参加してみたいなと思ひます。クロアチアへ行ってたくさんいい思い出が作れてたし、みんな無事に帰ってこれたのでとても楽しかったです。

「楽しかったクロアチア」

ガールスカウト32団 日比野 七生

私は、クロアチアに行くのがとても楽しみでした。なぜかという、海外に行くのははじめてだったし、自分団のリーダーがいたので行きたいなと思っていたからです。

クロアチアという所は、古い建物がたくさんあって緑が多くてきれいな所でした。

キャンプ場に行くとクロアチアの人達が私達をでむかえてくれました。初めはあまりなじめなかったけど話しているうちにどんだんなじんできました。英語があまりできない私でも、ジェスチャーなどでなんとかか会話できました。

キャンプ場では、海へ行ったりキャンプファイアーをしたりして遊びました。海にはウニやナマコや小さな魚がたくさんいてとてもきれいでした。キャンプファイアーではクロアチアのいろいろな遊びを教えてもらったり、私達が日本の遊びを教えたりしていました。食事日本とちがい毎朝パンだったし、あじもけっこう良かったです。

私は今回このキャンプに参加して、本当によかったと思います。まだ、あまりできない英語でも通じたしクロアチアが、どういう所なのかも分かりました。また、クロアチアに行ってみたいです。

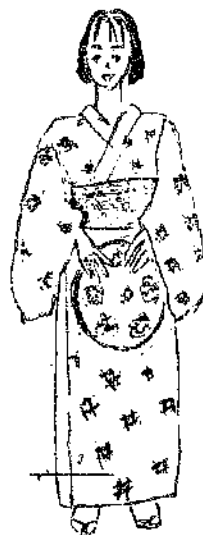


私は海外研修に参加して良かったと思います。

両親がいない子たちがキャンプしている所へ行ったとき、驚きました。両親がいないのにみんなとてもいきいきしてたし、とても素敵な笑顔でした。クロアチアの子たちはつよいんだなと思いました。

私達がみんなで話をしていると15~17才ぐらいの少年が私達に日本語を教えてと来たのです。私はまた驚きました。一生懸命覚えようとしている姿を見ると感心してしまう。というより私も負けずに英語を覚えようと思った。私達が泊まるキャンプ場へ行ったとき、重たい自分の荷物を運んでいるとキャンプ場の子たちが私たちの荷物を持ってくれました。なんて優しい子たちだろうと感心しました。さっそくみんなで「ウノ」をして遊んだ。でも、言葉も習慣もちがうのでおもしろい通りに会話することはできなかった。それでも楽しかった。中でも一番楽しかったのは、サッカーです。最初はなにをしていいのかわからずおどおどしていたけど、気がつくとボールをおっかけていました。

最後のお別れパーティはみんなとっても楽しいと喜んでくれました。花かさおんどは人気がありました。翼をくださいを歌っている時どくと涙があふれてきました。イタリアに行かなくていいからその分ここにいたいと思いました。クロアチアの子たちは、ニコニコして「さよなら」と手をにぎってくれました。また涙があふれました。この思い出は一生の宝物だと思いました。



「キャンプに参加して」

ガールスカウト65団 岸 まいこ

今回このキャンプは、2週間のうち6日間でもとても楽しめました。テントはもうできていたし、食事も全部用意してくれて、遊ぶ時間がたくさんありましたが、6日間では足りないほどでした。

初めは、英語もろくにしゃべれないし、不安が多かったのですが、相手の言葉を理解しそれに答えることはなんとかできました。私たちの班と一緒に行動した人達は、10才か11才の小さな子が多く、英語が通じない子もいましたが、一生懸命会話をしようとしてくれてうれしかったです。

だいぶ仲良くなったころにはもうかえらなければならなくなってしまって、とても残念でした。観光なしで、もっとキャンプ場にいたかったです。別れる時、泣いてくれたり、バスをおいかけに来てくれた人もいて、それがとてもうれしかったです。参加できて、本当に良かったと思いました。

「クロアチアで学んだこと」

ガールスカウト32団 中村 奏子

今年の夏休みは、今までとは違い、外国に行きました。そして、ガールスカウトだけではなく、子ども会の人達もいっしょでした。行く前には、いつものガールスカウトでのキャンプでは、だいたい3泊4日でしたが、今回は2週間です。全部キャンプではないけど、外国での生活なので、大丈夫か心配でした。しかも、私達が行く国は、クロアチアで、何年か前まで内戦があった国なのです。私達が体験したことのない戦争をクロアチアの子供達は体験しているのです。

出発の日の朝は、とても早く、起きるのがつらかったのを覚えています。

成田空港に着いたら、外国人の人も大勢いて、もう、すこし外国に来た気分になりました。飛行機には、初めて乗るので、すごく楽しみでした。そして、今回は運よくビジネスクラスに乗れて、すごく良かったです。楽しみにしていた機内食もけっこうおいしくて良かったですと思いました。飛行機の中では、はしゃぎすぎて、一睡もしませんでした。

ベニスに着くと、もう夕方なのに、昼のような明るさでした。その時点で私は、すでに時差ボケしていたのかもしれませんが。

ホリデーセンターに着いたのは夜でしたが、クロアチアの人が食事まで用意して、出迎えてくれました。

リエカの町は、古い建物ばかりで、日本とは違い、かっこよく、そして、歴史のある建物もありました。そして緑が多く、とても景色がきれいで、何より、青くきれいな空が印象に残りました。

クロアチアでの、買い物は、すべてクナで、1クナ22円というのには、さんざんまどわされました。だけど、楽しく、たくさん買い物ができました。

私達は、戦争で親をなくしてしまった子供たちの集まるキャンプ場にも行きました。そ

こには5才から18才ぐらいの子供達がいました。私は、その時、私と同じぐらいの年齢の子が、戦争で、親をなくしてしまったという事実をつきつけられ、とまどいました。

ウマクのキャンプ場で、クロアチアの子と始めに話した時には、クロアチア語はもちろん、英語でさえろくに話せない私は、名前を聴くことぐらいしかできませんでした。けれど、そのうちに、身ぶり、手ぶりを遣いながら、なんとか友達もできました。そして、いっしょに遊ぶこともできました。

夕方には、キャンプ場の近くの海に泳ぎに行きました。海は、すきとうっていて、すごくきれいでした。そして、砂浜ではなく、岩場だったので、がっかりしてしまいました。海からもどり、シャワーをあびました。そのシャワーというのは、ホースの先にシャワーヘッドがついているだけのもので、日本では考えられないものでした。水はすごく冷たくて、大変でした。けれどシャワーはそれしかなく、しかたなしに、それでやりました。クロアチアは暑いけど、日本と違ってカラッとしていて、特にキャンプ場は林の中ですずしい風もふいていたので、あまり暑さは気になりませんでした。

クロアチアのキャンプは日本のキャンプと違う所がありました。まず、決められたことをやる時間以外、フリータイムで好きなことができる。食事を作ってくれる人がいる。テントの中にベットがあって、2人用。などというのが、大きな違いでした。私は、このクロアチアのキャンプがすごく楽しくて、日本でもこんなキャンプができたらいいな、と思いました。ウマクのキャンプ場ですごした日々は、1日1日が楽しくて、意味があったと思うし、個人のテーマの「日本とクロアチアの文化の違いを知り、よりお互いを理解し合いたい」というのをわすれないで、がんばったと思います。小学校1年生から、ガールスカウトを続けていたから、めぐり会えたチャンスだと思います。今年の夏休みクロアチアに行けて本当に良かったと思います。そして、英語をもっと勉強して、話せるようになったら、また、クロアチアに行きたいです。



「国際キャンプの感想文」

ガールスカウト31団 平田 文

私はJrの頃からSrKになったら必ず、海外に行きたいと思っていました。

しかしその時は、こんなにも早く行けるとは思ってもいませんでした。

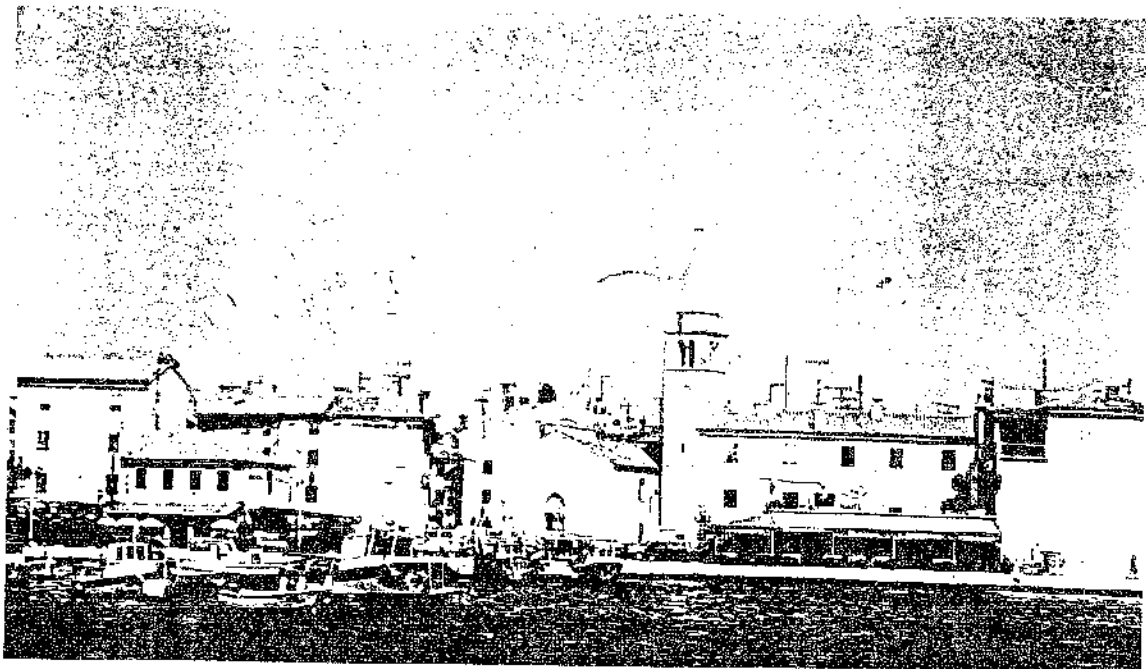
6月に手紙が届いてお父さんやお母さんに相談して行ってもいいという事になると夢じゃないかと何度も思いました。向こうではスリが多いなどとも聞いて少し不安になりましたが空港についた時にはすっかり忘れていました。

クロアチアについての時けしきも空気も違うそんな気がしてこれからの2週間どんな事があるかわくわくしていましたが、来た日から私は気持ちが悪くなりみんなに迷惑をかけました。キャンプ場の人達はみんないい人ばかりでUNOをやったり、海で泳いだり歌を歌ったりして楽しく過ごしました。楽しい分最後に帰る時ずっと泣いていました。観光した所はみんなキレイで立派で色々な文化の違いを感じました。その建物のエピソードもおもしろかったです。

今回この活動に参加して色々な事を学び自分でも少しだけ何か変わったような気がします。英語がしゃべれない悔しさキャンプ場についての時何も言わず荷物を持ってくれたやさしさ、お父さんお母さんがいない子供たちの明るさ。

活団中、お世話になったリーダー、団員長、子供会の人
キャンプ場のみんな、アドリア、ミラノ、オアシスのメンバー
ありがとう・・・ではなく

LIJEPO HVALA (どうもありがとう)



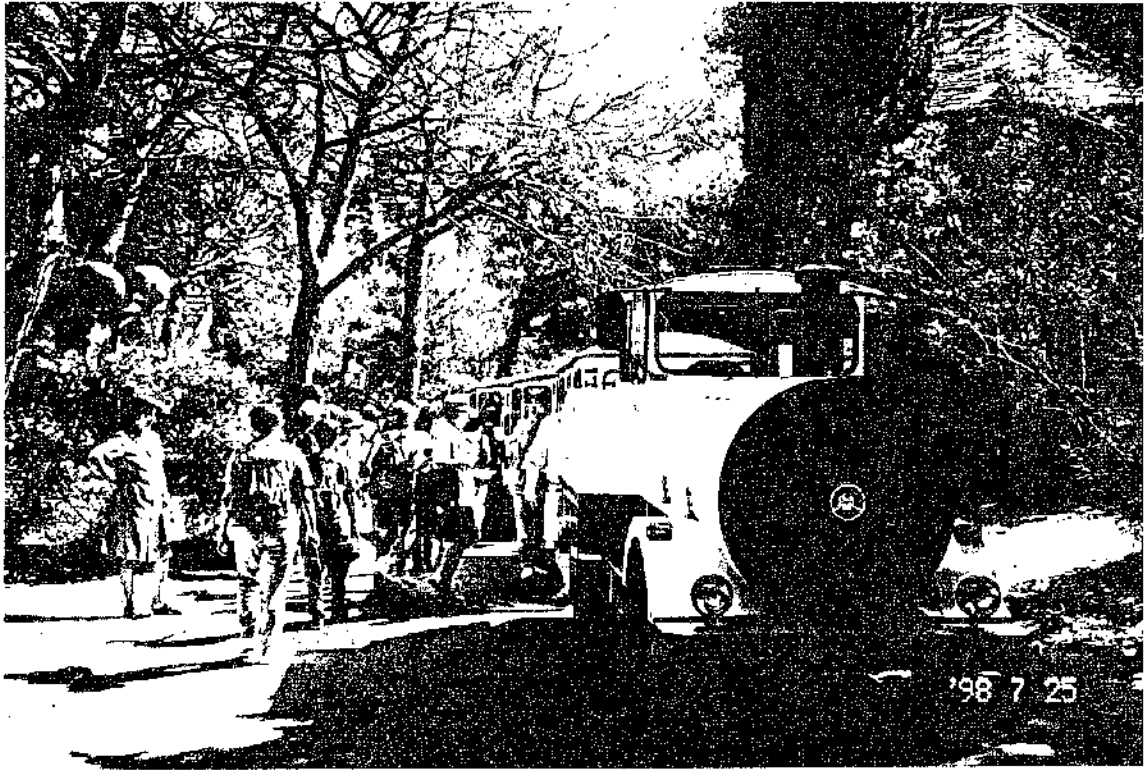
クロアチアに行ったきっかけは1枚のはがきだ。見てみると大きく「海外派遣」と書いてあり、すごくうれしくて胸いっぱいだった。でも最初親が、「中一で海外はちょっと…」と言ってたけど、いろんな経験をした方がいいということで行くことになった。その日にちまで時間を有こうに使い、自分のテーマを考えた。私は「交流」というテーマを持ち、楽しく過ごし、たくさんの会話をしたいというふうに考えた。

とうとう出発のときがきた。すごくドキドキした。飛行機に乗ったらビジネスクラスだったのでうれしかった。フランクフルトに着いた時あまり外国とは思えなかった。でもいろんな国の人々がいた。次の飛行機に乗り目的地のリエカにちかずに近づいてきた。景色を見たり友達としゃべっていたらあっという間に到着した。リエカに足をふみ入れた時、これから何が起こるんだろうと、またドキドキした。そしてバスに乗って「ホリデーセンター」という所に3泊4日した。その中で一番の思い出が市長表敬訪問。私が代表であいさつを言うことになっていた。街を見学した後に行った。すごくきれいな所で、友達とさわいでいた。そしてせい列して、団長から市長へのあいさつ、次に私の番が回ってきた。顔を見ながら、メモ用紙を見ながらきん張したけれど云い終わった。女の人が市長さんへ通訳してくださった後、市長さんの大きな手とあく手をした。その時、代表で本当によかったなど、すごくおもった。次に、軽食に案内してくれた。途中で写真をとったり、プレゼントをもらったりした。帰るとき、大きな声で「ファーラ」とあいさつをした。この日は終わった。

その次の日。クライマックスのときがきた。ウマグのキャンプ場だ。まず、5泊6日お世話になることをみんなであいさつする時、輪になった。クロアチアの人達を見てみると、みんなやさしそうだった。次にそれぞれの班の大人のリーダーを教えてもらった。そしてスーツケースを運ぶ時、何だか分からないけど他の班のリーダーが運んでくれた。とても親切でうれしかった。そしてテントまで行き落ち着いたところで、友達と、散歩した。すると、5人位でカードゲームの「ウノ」をやっていた。思いきって、友達と話しかけてみた。「プレイ！」相手にはなんとか通じた。いれてもらいさっそくカードが配られた。日本とはちょっとちがって、わけの分からないカードばかりだった。だけど、みんなとやっていくうちにルールが分かってきた。そしてクロアチアの人達はおどろくほどの心の明るさがある。ウノをやっている間も明るく私達にまで、話しかけてくれた。それから次に、ハンドクラフトをあげた。私は新聞紙で、かぶとを11枚作った。でも予想以上の人数で、5人位オーバーした。その子達には、ホリデーセンターでもらった新聞で作ってあげた。そしてそのおれいに「クナ」をもらった。お互いにとてもうれしかった。この他に、海に行ったり、キャンプファイアーで楽しんだ。最初の日からこんなになるとは思っていなかった。言葉、遊びの交流がすごく楽しめて良かった。

クロアチアでは、パンが主食。朝食は必ずパンが出る。昼食、夕食は口に合わなかったのもあった。そして、習慣がちがったことが、たくさんあったけど、それは当たり前と思いつながりながら生活した。それよりもとにかくみんなで楽しむことが大切だとおもった。

そして班行動。広い場所へ移動し、ゲームをやるらしい。みんな輪になって、真ん中に



ボールを持った、マツコがいた。そしていろんな人に投げた。どこに投げるか分からない。でもすごく上手だった。この他にもいくつかのゲームをした。にぎやかで、とても楽しかった。でも楽しい時間がどんどん過ぎとうとう、さよならパーティーの時間がきてしまった。桜マリアーナを歌ってみんなを迎えた。私と友達2人で司会をやった。始めの言葉を大きな声で言った。それぞれのコーナーの紹介をしてから、みんなちらばった。私は紙ふうせんを担当した。大勢の人が喜んで遊んでいたからよかった。「プレイ！」と、さそってくれたのがとてもうれしかった。次に、ぼん踊り。ほとんどの人が踊ってくれた。その後すぐ制服に着がえて、最初の日と同じように輪になった。いろんな歌を歌った。キャンプファイアーで歌ったクロアチアの歌もいくつか歌った。楽しかった。「大きな」も歌った。クロアチアの人達には、この歌が人気だ。それからキャンプ場の出入口でみんなとおお泣きをした。みんなに握手をしたり、「バイ」を言ったりした。バスに乗り、ずっと手をふった。とても悲しい時間だった。「交流を深める」という私のテーマは、最高にはたせたと思う。友達は無数にできた。そして思い出。クロアチアの人達に、感謝の気持ちでお礼を言いたい。「ファーラ」この思い出は、一生忘れない。

「リエカ市国際キャンプに参加して」

副団長 竹折 恵子

提携20周年を迎えた姉妹都市リエカで開催される国際キャンプに、川崎市の青少年団体が招待を受けたことから交流使節団員として子ども達と一緒にキャンプに参加することにした。

子どもを募集する段階で、親からユーゴ紛争の危険性を尋ねられたものの、参加した子ども達は果してどの程度の理解があっただろうか。

キャンプ地滞在中に、この度の戦争で親を失った子ども達のキャンプ場を慰問はしたものの、事前にもっと戦争があった事や、内戦の経緯等話して聞かせたり、一部の人を除いては戦争の傷あとの残る家々を見る事がなかったが、子ども達に戦争はあってはいけないのだと頭に焼きつけて来ても良かったのでは……と思った。リエカ側は、逆にそんな所は見せないようにの配慮があったのだろうか……。

義母94歳が一時危篤の状態のため、十日～十六日迄九州に見舞いに行ってきた。十八・十九日の町内の盆踊りで皆が大丈夫かと心配してくれたが、二十日早朝の出発は苦しかった。取りあえず身体さえ行けば……。子ども達が元気に出発してくれれば……。

そんな中でのクロアチア！暑い暑い夏だった。そして、あつく燃えたキャンプだった。

キャンプ場での別れの時に泣いて別れた子ども達の涙は何だったろうか。和代リーダーのように今回の交流をキッカケに新しく生まれるべき何らかのチャンスを自ら持つ事が出来るだろうか。

その後、バスの中で深い眠りに入った子ども達の姿に、次ぎなる発展を期待したい。身も心も大きく育ててほしいと！



「リエカ市交流使節団に参加して」

リーダー 佐々木れい子

リエカ市訪問は、二度目ですが、今回はキャンプという事で少し不安な気持ちで参加しました。

成田を出発、マルコポーロ空港に午後7時着、真夏の太陽が照りつけていました。ちなみに、日没は8時40分頃です。バスでホリデーセンターへ着いたのは夜中の12時になってしまい、27時間という長い行程でした。

一夜明け、いよいよ今日からプログラムが始まる。

リエカ市内見学、市長表敬訪問、国立公園、鍾乳洞等々見学、そして戦争で親を亡くした子供達を招待し、ボランティアの方々が奉仕しているフジネのキャンプ場訪問、私の想像と違い、明るくのびのびと楽しんでいました。同行した子供達も同じように感じた事と思います。三日間のホリデーセンター、スタッフの方々に感謝をしながらウマクのキャンプ場へ、大勢のスタッフ、お友達に迎えられ入所式、昼食後、もうグループの一員になって海水浴へ、夜はキャンプファイヤー、ここでは班毎の行動が主で、それぞれバレーボール、サッカー等、フリータイムには、トランプ、なわとび、卓球、プレゼント交換、すっかり仲良しです。

子供達は、本当にとけこむのが早く、私たちの心配など吹き飛んでしまいました。キャンプ場の最後の日、さよならパーティ「さくら、さくら」「マリアーナ」を歌いながら、お友達を迎え「マリアーナ」を歌った時には拍手、合唱して下さいました。そして、各コーナーの説明、実演、本番、大成功でした。終わりに盆踊り（花笠は、リエカのお友達も一緒に手伝ってくれた）は、全員参加で見よう見まねで一生懸命楽しそうに踊ってくれました。大感激です。いよいよお別れ、ファーラを歌いバスの中へ、涙がいつまでも止まりません。素敵な一シーンでした。子供達から観光はいかなくてもいいから、もっとキャンプ場にいたい！子供達の素直な嬉しい言葉でした。

そしてイタリア観光、水の都ベニスではサンマルコ寺院、フィレンツェ、ミラノでは、レオナルドダビンチ、ミケランジェロ、ボッティチェリ等巨匠の作品を、実際に目の前で見たその感動、一生の思い出です。

ほんの一部ですが、リエカを見聞し身体で感じ理解できたように思います。

最後に多くの方々のご協力で、このような実のりある交流使節団に参加させていただきました事を心から感謝いたします。ありがとうございました。



「使節団の保健を担当して」

リーダー 天野 恵美子

出発当日は、朝早くの集合だった為、睡眠が充分にとれていない子供も多かった様ですが、バスの中では、皆、楽しそうにおしゃべりをしたりしていました。睡眠不足と空腹のせい、車に酔ってしまった子供がおりました。

空港では、出発までの待ち時間の間に、子供達の健康チェック、持病の薬のチェックをしましたが、ほとんどの子供達は特に薬を持つ事もなく、健康状態も良好でしたが、事前に健康カードの様なものを配布し、健康状態の把握が必要だと感じました。

旅行中、特に大きなケガも、事故もなく、ほっとしております。

今回、使節団として、医薬品を持参しなかったのも、今後、この様に子供を連れての旅行には、医薬品を持参するのが、望ましい事だと思います。

「リエカ市交流使節団に参加して」

リーダー 奥田 恵子

7月20日、成田空港を後に期待と不安を抱きながらリエカへ出発しました。ドイツを経由しベニスの空港へ、そしてバスに乗り換え一路リエカ市に向かいました。

最初の3日間はホリディセンターにお世話になり、市長表敬訪問をはじめ教会・博物館等市内を見学し充実したスタートでした。連日、暑さと盛り沢山のスケジュールのため、スカウト達に疲れが見えはじめました。でも、古い歴史が刻まれた町並みや、行き交う人々の様子など異国の珍しさに目の輝きは隠せませんでした。

リエカ市と姉妹都市になった所以は、産業の一つである造船業の技術提携だったそうです。市内には記念の像をいくつか見ることができました。

また、クロアチアのマグロは、私たちの食卓に欠かせない輸入品でもあります。何かとてもクロアチアが身近に感じてきました。

さて、4日目いよいよキャンプ場の生活に入りました。リエカのスカウト達の暖かい歓迎を受け、みんなの不安もどこえやら、早速お互いのネーム交換が始まりました。

こうして6日間のキャンプ交流が始まり、ゲーム・遊び…いろいろ交換し合いました。アドリア海での水泳、キャンプファイヤーのソング交換、花笠踊りの笠作りも楽しそうでした。スカウト達は環境にも慣れ、食事も残さず食べられるようになりました。日頃、何の不自由もなく、むしろ贅沢に過ごしている生活に、何か感じる事があったと思います。シャワーやトイレの使い方、水の大切さ、食生活の違い等々貴重な体験もしました。

自然に恵まれた環境の中で、ゆとりのあるキャンプ生活は、まさに外国的な休暇の過ごし方なのではないでしょうか。スカウト達はすっかり打ち解け、友達もたくさん出来たようです。

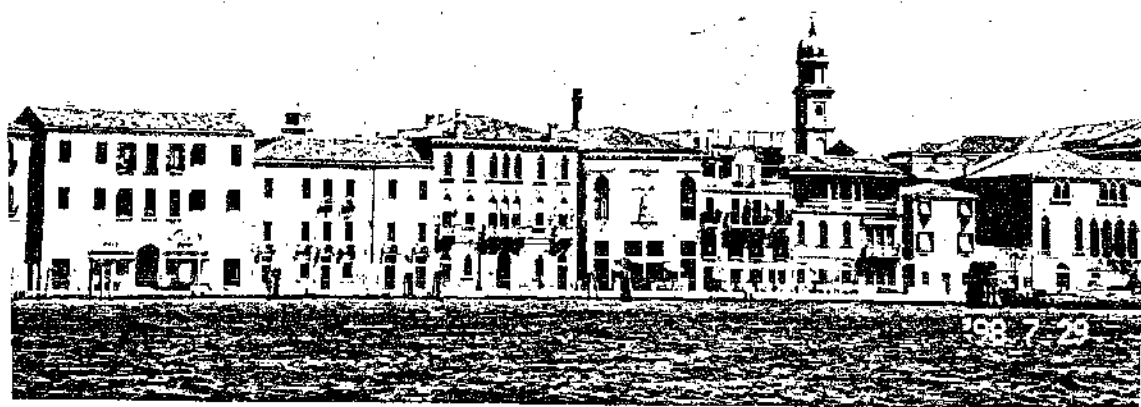
「もう少しお話をしたいのに、言葉が…」と言う声も聞こえました。この時がチャンス！英語の勉強がんばってね。

やっとお互いに打ち解けて来たのに、もうお別れの日が来てしまいました。クロアチアのリーダー、スカウト、炊事のおばさん、大変お世話になりました。7月28

日別れを惜しみながらウマクのキャンプ場を後にしました。

そろそろスケジュールも終わりに近づき、イタリア（ヴェネツィア・フィレンツェ・ミラノ）に入りました。神秘的な聖堂や宮殿では古代ローマ時代の歴史を垣間見る事が出来ました。また、スカウト達の念願叶って、ウフィツィ美術館では多くの巨匠の絵画を見学しました。

持ちきれないほどの素晴らしい思い出を抱えて、今回の旅は終わりました。



「成人使節団員として」

武田 知恵子

26・27日を取り上げました。

八年前にも見学したのですが、再度行ってみたくポストイナ乳洞に往復トロッコに乗り奥に奥に入る。自然の風景とはゆえ、その物が光に合わせて色々な物に見え、うつりすばらしいの一言。何百年かかって少しずつ長くなるとか、世界八番目と言うが私にとっては一番ではないかと思う。

第二次世界大戦の時、この中に隠れていたと聞き、“え……”。続いて、洞窟の城の見学。大規模の滝・湖（エメラルド色）は、入口より少々歩き、電気自動車に乗り、帰りは変化のある滝を眺めながら登ったり下ったり、湖淵を歩き、怖い橋・狭いところもあったり、船にも乗ったり、途中、足が痛くダウン。行く途中、内戦のあった町並み（家々）、復興にと家族で建なをしている所もあったり、壁に弾丸の跡も残っていたり、22日見舞った子ども達の事も思い出した。

「リエカ市交流使節団に参加して」

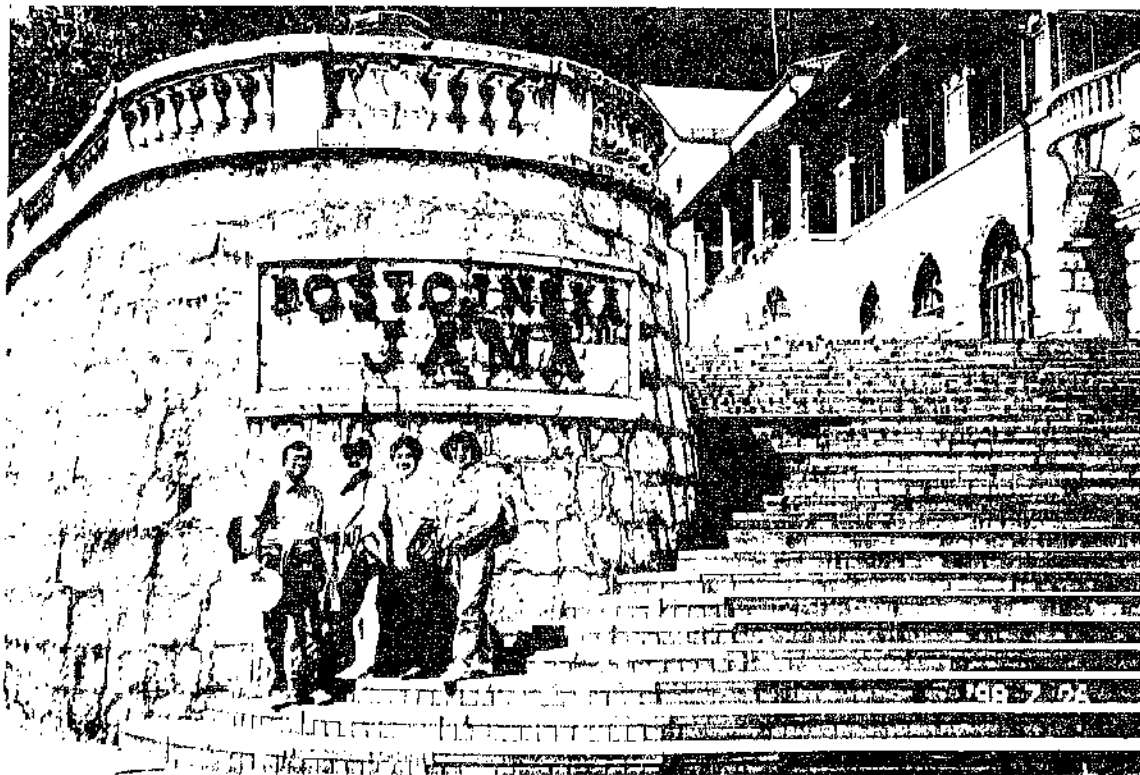
山口 淑子

子ども達のキャンプへの参加を楽しみに、事前研修にも通いましたので「一般観光組」と言われた時は少々驚きましたが、2週間親元を離れて外国暮らしをする子ども達の緊張感に囲まれ責任も感じて成田を後にしました。

リエカ市の見学、市長への表敬訪問の後ウマクのキャンプ入所式を終え、私たち3人はオパティアのホテル組となりました。1カ所のホテルに1週間も滞在するのはめずらしい経験でしたし、ツアーも自分達で考えて出掛けました。8年前に来たときはパスポート無しで行けた観光地も今は外国、南の方に車で2時間も走った山間の町の建物には銃弾の跡が生々しく日本とは違った戦争の傷あとを見ました。

今年の夏は特に暑いとか、ホテルの部屋はクーラーも無く、全体にのんびりした感じでした。

キャンプ最後のサヨナラパーティに参加、盆踊りで盛り上がってきました。キャンプを終えた子ども達はすっかり落ち着いて遅くなり、イタリアの観光も楽しみ全員無事帰る事が出来ました。



「14日間の旅」

仁藤 照子

リエカ市交流使節団に始めて参加する。

7月20日、朝4時に家を出発、リエカ着夜中の12時10分、8時間の時差を考えると28時間の長い乗物でした。

翌日、クロアチア市内見学、午後2時よりリエカ市長へ表敬訪問をする。チト一大統領の別荘地等を見学できました。23日より、キャンプと観光と別になる。

26日ホストイナへ、世界で13番目に入ると聞いた鍾乳洞、トロッコにて中に入る。大変広くすばらしい所、2時間見学、もしかして世界1番ではないでしょうか。皆で話していました。午後から、プラデヤーマスキ、ホラ穴の前にお城が有る、昔山賊が住んでいた所を見学する。

27日、ウイトリーツエク、滝の有る公園に行きました。850Mの間に16ヶ所の湖と沢山の滝が有る所でした。湖を電気動力の船に乗る。

途中、オルソからオトチャの周囲は、内戦のキズあと、鉄砲の穴や屋根が飛ばされてしまい、今も住人がなく、あれた生々しい様子を見ました。

7月31日、ミラノの町中の狭い道で、4人の女スリに私と他一人がおそわれ、瘦せた女でも力の強い事にビックリする。何も取られませんでした。一人では負けてしまいます。

今回の参加者全員、何事もなく、元気で帰りましたこと、本当によかったですね。

皆様お世話になりました、ありがとうございました。

「リエカ市交流使節団を終えて」

青少年育成連盟事務局（青少年育成課） 小島 謙介

1998年7月20日（月）～8月2日（日）の14日間の青少年育成連盟リエカ市交流使節団は、大きな事故や怪我もなく無事帰国できました。なにより、なにより…。

そして、子ども達の得た成果は、感想文に充分記述されているとおり多大なものであったようです。彼らにとって、史跡、遺跡、美術館などの観光やおみやげの購入よりも、ウマクでのリエカのスカウト達との交流に、今回の使節団員としての意味や意義を感じてくれたのが、大変喜ばしいことだと思います。この有形無形の経験は、本人達のこれからの人生の大きな糧となるだろうし、青少年育成連盟や各団体の将来の担い手として活躍してくれるでしょう。

また、芦垣団長をはじめ、リーダーそして成人使節団の方々は、それぞれの立場で今回のリエカ市交流使節団を支えていただきました。無事帰ってこれたのも、大人の方々のご苦労によるものであるのは言うまでもない。本格的な準備に入ったのが4月からで、出発までの約3か月間にリエカとの連絡、日程調整、計画立案から団員の募集、事前研修などなど慌ただしい日々でした。準備不足などから、リーダーをはじめ参加者の方々に適切な情報を提供できなかった場面も多々あり、本当に申し訳なく思っております。特に、リエカで、使節団の受入れに一人奔走してくれた和代リーダーには、感謝、感謝。

そして、リエカ市スカウト連盟のブランコさんをはじめとするリエカ市の関係者の方々の心にしみるような温かい受入れには、どんな感謝の言葉も意味を失ってしまうほど感動的でした。クロアチアの方々の心のやさしさやボランティア活動のあり方を、あらためて学ばせて頂いた思いです。また、リエカの子ども達の思いやりや明るさも、印象深いものでした。つい最近まで続いた戦火による、苦しさや悲しさを乗り越えた本物の思いやりや明るさなのでしょう。

最後に私事になりますが、私自身はじめての海外渡航でした。タバコの吸えない飛行機、時差、持ち物、言葉などなど不安が一杯でした。

しかし、人間なんとかなるものだ…とは、言ったもので毎日追われているうちに、2週間が、あっという間に過ぎてしまいました。何だか、足手まといになりに行ったようにも思いますが…。

とはいえ、また行きたくなるのが海外だそうで…。今度は、夫婦で…などと、考えているところでございます。



リエカ市交流使節団研修日程

月 日	内 容	会 場
6月 6日	説明会	中原市民館
6月13日 ～14日	事前研修1 宿泊研修 ・班割, 役割分担 ・リエカ市について 講師 伊藤 弘美 ・クロアチア語, 歌について 講師 芦垣 和代 ・個人テーマについて	青少年の家
6月23日	事前研修2 ・旅の心得 ・持ち物について	高津市民館
7月11日	事前研修3 ・交流会の練習 ・交流会用製作物の作成	高津市民館
7月14日	事前研修4 ・川崎市長への出発挨拶	川崎市役所
7月20日 ～ 8月 2日	リエカ市等訪問	
8月25日	事後研修1 ・報告書の作成について ・評価, 反省会	高津市民館
9月15日	報告会・解団式	高津市民館

川崎市青少年育成連盟
事務局

川崎市中原区上小田中
6-22-5 中原会館内

TEL 044-733-3951